

## 公民館の創世記 4

青島一雄

なにを学習するかがない。もちろん、教科書も指導要領もない。おまけに学習の場所もない。ただ、「実際生活に必要な学習」といわれても見当がつかない。結局、各種団体の育成を図ることから始めようと婦人会・青年団体・文化団体・体育団体等のお手伝いを始めた。最近、各団体の「創立五十周年記念誌」などを拝見すると創立当時の役員名簿のなかに幹事とか書記とかに私などの名前が出てくるのを見ると、成る程と思い当たる。

どの団体にも所属していないし、興味もない市民を対象に始めた「ラジオ体操」の指導講習会も、各町内を巡回し祭り、各団体も軌道に乗り出した昭和 28 年（前 27 年 11 月には教委が発足して保健体育課が出来る）公民館事業として「市民ハイキング」を挙行政した。第一回は、ボーイスカウトや山岳会のお手伝いを含めて約百名、翌年の二回目は二百名、三回は四百名と参加者は倍々と増え、五回目からは臨時電車ということになった。

挙行政日を 5 月 5 日のこどもの日にしたのも当たったし、秩父鉄道の全面的な協力で続いたともいえるが、千名以上の大部隊が歩ける山が沿線にはもう無い。

（熊谷市公協だより 第 29 号 平成 10 年より）